

第 11 回成果報告会の開催について

—富士山測候所観測 10 周年を迎えた 2017 年度の研究成果を発表—

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会は 2018 年 3 月 25 日（日）東京理科大学森戸記念館を会場として富士山観測の第 11 回成果報告会を開催します。全部で 30 件（口頭発表:15 件、ポスター発表 18 件）の発表があります。（共催：東京理科大学総合研究院大気科学研究部門）

2007 年から始まった富士山頂での夏期観測が 10 周年を迎えた 2017 年は、7 月 1 日から 8 月 31 日までの 63 日間過去最多の 28 プロジェクトに延べ 377 名の研究者や学生等が参加して実施されました。

2017 年の夏期観測では、新規のプロジェクトが約 3 分の 1 を占め測候所の活用分野が更に拡大したほか、②通年無人観測を継続する「第 2 次越冬観測ブーム」、③噴火など火山活動に伴って発生する二酸化硫黄のリアルタイムモニタリング、宝永山火口での観測、高所での噴火監視など富士山噴火に備えた防災関連の研究、④通信技術を利用して登山者の動きを可視化することにより人の安全を確保する大規模プロジェクトとの連携、⑤高所医学研究、などのトピックスがありました。

今回の成果報告会におきましては、夏期観測に参加した研究者が一堂に会し、上に挙げたテーマでの研究成果について判りやすくお話しいたします。皆様には、そうした最新の研究内容を知っていただくとともに、当会ならびに当部門の活動をより深く理解していただく機会となることと思われまます。

皆様お誘い合わせのうえ、多数のご来場をお待ちしております。

第 11 回成果報告会概要

日時：2018年3月25日（日） 13:00～18:00 開場 12:30

会場：東京理科大学森戸記念館
東京都新宿区神楽坂 4-2-2
JR「飯田橋」駅、地下鉄「飯田橋」駅下車、神楽坂商店街を約 300 メートル坂を上り直進、毘沙門天向かい

内容：口頭発表 15 件
ポスター発表 18 件

参加費無料

参加事前登録：

HP の[事前登録フォーム](#)から登録をお願いします。
ただし、当日会場での受付もうけたまわります。

共催：認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会
東京理科大学 総合研究院大気科学研究部門

後援：一般財団法人新技術振興渡辺記念会
トヨタ自動車株式会社「トヨタ環境活動助成プログラム」
公益財団法人栗井英朗環境財団
公益財団法人日本環境協会東京ガス環境おうえん基金
公益信託大成建設自然・歴史環境基金

公式サイト：[第 11 回成果報告会公式サイト](#)

2017 年の富士山測候所での研究・活用成果を発表します

第 11 回成果報告会

●口頭発表：野村歩平（国立環境研）/加藤俊吾（首都大）/大河内博（早稲田大）/柴持真一（埼玉環境科学国際センター）/
小林拓（山梨大）/三浦和彦（東京理科大）/越田勇気（海城高校）/藤原周（東京大）/古田豊（立教新宿中・高等学校）/
田中義典（富士山チャレンジ）/堀川仁（東京学芸大）/安本勝（ヤマザキ）/丹出聖吾（都立大南葛校）/浅野隆巳（筑波大名誉教授）
●ポスター発表：実原聖（金沢大）/藤口真文（防衛大）/大塚彰弥、五十嵐博三、佐藤光之介、小倉健太郎、児玉真一、横山誠太郎、梶井祐広（東京理科大）/夏田龍一（帝京科学大）/野田和俊（産総研）/安本勝（ヤマザキ）/藤原博伸（早稲田大・女子聖学院大）/小森孝洋（自治医科大学）/三ツ元三郎（横浜山岳会）/中村亮太（Picolab LLC）/朝原悦雄（産業技術大学院大）、近藤英一（山梨大）



日時:2018. 3.25 (日)
13:00-18:00 開場 12:30
会場:東京理科大学森戸記念館
東京メトロ有楽町線/南北線飯田橋駅 B3
JR 飯田橋駅西口下車

参加費無料
共催: 認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会
東京理科大学総合研究院大気科学研究部門
後援: 公益財団法人 栗井英朗環境財団
一般社団法人 新技術振興渡辺記念会
公益信託 大成建設自然・歴史環境基金
トヨタ自動車株式会社「トヨタ環境活動助成プログラム」
公益財団法人日本環境協会東京ガス環境おうえん基金

公式サイト
<http://npofuji3776.jimdo.com/>